



平成28年1月15日
槻田小学校 保健室

5年生号

新しい年がスタートしました。去年の今頃は猛威をふるったインフルエンザですが、今のところ罹患者もなく、元気な子ども達の姿がみられています。

とはいえ、時期は冬本番。今シーズンは暖冬ですが、始業式頃から冬ならではの寒さがやってきましたので、体調を崩さないよう、3学期も元気に過ごしましょう。



発育測定を行いました

先日実施した発育測定後に、「生命の不思議」についてお話をしました。4年生の時に学習したことを振り返りながら、確認していきました。おおまかな内容は以下のとおりです。



卵から生まれる生き物もありますが、哺乳類はお母さんのお腹から生まれます。人間もそうです。人間の赤ちゃんがどうやって成長していくのか見てみましょう。

人間の赤ちゃんは、男の人がもつ赤ちゃんのモト「精子」と女の人がもつ赤ちゃんの卵「卵子」が一緒になって生まれます。

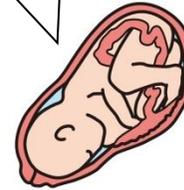
生命の不思議

大人になると、精子は1日に約3億個、男の人の精巣でつくられ、卵子は1ヶ月に1個ずつ女の人の体の卵巣でつくられます。3億個の精子のうちの1個と卵子が出会うことを「受精」といいます。これがみんなの命の始まりです。

一人一人が3億分の1の確率で誕生！！

7か月

お腹の中で、あくびをすることもあります。
(実際の画像を見ました)



しかし、受精がおこったからといって必ず赤ちゃんになるとは限りません。様々な困難を乗り越えて、受精卵はやがて赤ちゃんへと姿をかえていくのです。

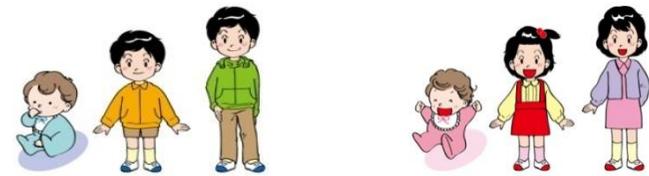
2か月

とても小さいですが、心臓も動いています。



お腹の中の赤ちゃんは、少しずつ大きくなり、生まれてもよい状態になると、お母さんに陣痛がおこり、赤ちゃんは生まれてきます。

生まれても、赤ちゃんは1人だけでは大きくなれません。家の人がお世話をしてくれたので、みんなはここまで大きくなることができました。



それだけみんな一人一人、お母さんのお腹にいるときから大事に育てて来てもらいました。人が一人、この世に生まれてくるのは大変なことです。自分もそうですが、友達も同じように生まれてきた大事な命です。お互い大事に思いやりながら過ごしていってほしいと思います。

